

近未来のレジャーホテルは環境工学で香りをデザイン!? インテリアを選ぶように ラブタイムの空気が選べたら

作家・コラムニスト **神田 つばき氏**



PROFILE

離婚と子宮ガンをきっかけに、女性に生まれたことの愉しみを求めて緊縛写真のモデルとライターに。『東京女子エロ画祭』『大人の性教育勉強会』などのイベント主宰も。女性の健康とWLB推進員(NPO法人女性の健康とメノポーズ協会)、中級シニアライフカウンセラー(一般社団法人シニアライフサポート協会)として性の健康のために活動している。Twitter ID は @tsubakist

香りと記憶の緊密な関係とは

あるトークイベントで、ふと話題がレジャーホテルにふれたところ、一人の男性参加者の方から、「私はラブホテルがきらいです。ラブホテルの匂いがいやなので」と唐突に言われて、困ったことがありました。

50代以上の方だったので、かなり昔の話かもしれません。今のレジャーホテルは空調に大変気を使っているし、リネン類もさっぱりと洗い上げてあって、特殊な匂いを感じることは少ないと思います。

それにしても、男性が不愉快そうだったのはなぜか、気になります。そこで話題を変えて、みんなで香りとの関係について体験談を話し合ったところ、活発な意見が出て盛り上がりました。

嗅覚に詳しい参加者がいて、例えばある場所であまり良くない体験があると、その記憶がその場所の香りに結びついてしまい、香りごと嫌悪してしまう例があると話してくれました。先ほどの男性は、「そうだったかもしれません」と苦笑い。

もちろんその逆もあり、親がよく作ってくれた料理と似た香りから、幼少時の楽しい気分を唐突に思い出すなどは、よく経験することです。なぜか香り

は記憶の深部に突き刺さるようです。

これには理由があり、五感のうち嗅覚だけが、記憶をつかさどる海馬に直接働きかけることができるのだそうです。原始時代の人間は、命を守るために獣の匂いなどをいち早く察知して、行動判断をしなければなりません。臭いで得た情報をしっかり記憶の中に入れていくことが重要だったということです。

女性の参加者からは、「あるシティホテルのエントランスの匂いが好きで、何度も泊まりに行っている」「すごく気に入っているアメニティの匂いがあったのに、廃番になってしまい残念」などの意見が出て、香りとホテルの関連に思い入れが深いことがわかりました。

香り別にお部屋がデザインされていて、パネルを見て内装でお部屋を選ぶように、サンプルを嗅いでお部屋を選べる「アロマホテル」があったらいいのに、という意見が出ると、ほぼ全員が賛成。このアイデア、ぜひレジャーホテルで実現していただきたいと思いました。

香りでリラックスと集中に誘う

一方で、「香害」がたいへんクローズアップされている昨今です。化粧品や洗剤、柔軟仕上げ剤に香りを付けている化学物質による健康被害の相談が国民生活センターに寄せられている現

状です。

調べるうちに、環境省が「かおり」分野における街づくりについてまとめた資料を見つけました。これは現在ある臭気を解決するというよりも、住民の感覚・感性とマッチしたかおりの活用を目的に作られた資料のようでした。

かおりによって、「地域の歴史・文化」「時間や季節のうつろい」「自然の営み」などを感じさせて、「ストレスや疲労の緩和」「リラックス効果」「精神集中」などに導く環境工学で、これはラブの空間にも応用できそうです。

合成的に作った香料のにおいではなく、さまざまな地域の個性を感じる木材や植物のほか、「茶葉を蒸すかおり」「鮎を焼くかおり」「酒造」「山焼き」「焚火」など、自然と人間の営みに根差した香りが例として挙げられています。香害のない素材を使った、記憶にヒットするかおりの活用法です。

*

私たちの香りの認識は、これからどんどん新しくなっていく、より繊細で想像力豊かな取り組みがクローズアップされるような気がします。レジャーホテルにおいても、「ふるさとの囲炉裏」とか「ハワイの海岸」など、体験型の香りを活用したお部屋が近い将来登場するのでは、と期待しています。